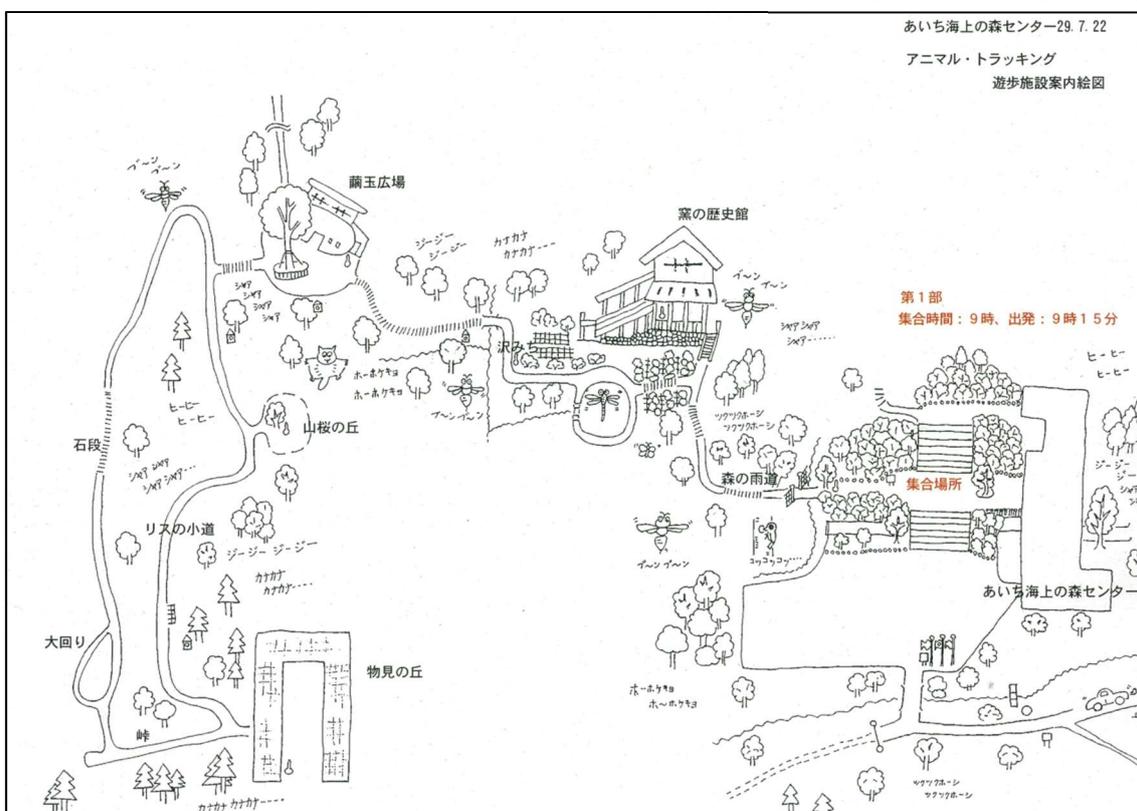


海上の森ミニセミナー第12回

アニマル・トラッキング概要

話題提供者 あいち海上の森センター 非常勤職員 酒井雅章

第1部 平成29年7月22日 9時から10時30分
あいち海上の森センター内の遊歩施設で現地観察
を行う。参加者18名



内容

○遊歩施設入り口付近の観察



森の入り口から森の雨みちに至る辺りには、森の中から続くケモノ道がある。階段の歩道の両脇には掘り起こされた跡が観察される。よく辺りを観察すると直径4cmほどの蹄の跡が見つかる。どうもイノシシの痕跡のようである。

○沢みち付近の観察

窯の歴史館から沢みちへ下ると、アカマツの切り株に泥がこすり付けられている。こすり付けられた泥に交じってケモノの毛があった。なぜ切り株に泥が付けられているのか、何気なく散策しているだけでは気が付かない。気が付けば、辺りには転々と泥の痕跡がある。痕跡の先には「ぬた場」といわれるイノシシなどが行う泥あびの場所があった。ぬた場を観察。ぬた場の水の中に小さな魚が3匹、泳いでいる。どうもホトケドジョウのようだ。



この後、7月1日に仕掛けた自動撮影カメラを参加者と一緒に回収した。何が撮影されているか、第2部で確認する予定だ。少しわくわくする。

○繭玉広場から物見の丘周辺の観察



ここからはムササビの巣箱や森のエビフライを探す。森のエビフライは樹上性リス類の食痕で、そこにいた証拠でもある。参加者ととも森のエビフライを探す。ポイントはアカマツの下。コース全体で12個のエビフライが見つかった。しかし、ムササビの顔出し行動は観察できなかった。前日には巣箱4でムササビの顔出し行動が観察されていたので残念だ。

哺乳類の姿を直接観察することは殆どない。むしろ、哺乳類との遭遇は危険を伴うことがある。そのような時は身の安全を確保することが最も重要である。海上の森では、哺乳類がいた痕跡をいたる所で見つけることができる。足跡、フンや食痕などは、少し気を付けて散策していれば見つかる。見つけることができれば、そこで彼らが何をしていたのかを考え、想像する。とても楽しい観察である。



第2部 平成29年7月22日 11時から12時 あいち海上の森センター3階研修室。

参加者11名



内容

タヌキ・キツネ・ムササビ・テン・イタチや

イノシシ等の足跡、アライグマ・ハクビシンやノウサギと思われるフンや食痕を具体的な写真を用いて報告。

また、海上の森に生息している主な哺乳類11種（ノウサギ、ニホンリス、ムササビ、タヌキ、キツネ、テン、アライグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、カモシカ）を紹介。



第1部で回収した自動撮影カメラの判読を参加者とともに行う。カメラには25枚が撮影されていた。

撮影された哺乳類の大多数はイノシシであった。しかし、ニホンジカが2日、撮影されていた。私が見逃した写真を参加者の女の子が「あそこにイノシシが写っているよ」と指摘。よく見ると、イノシシだ。多くの目で見れば、いろいろなことが分かる。

